



# もろすみともなり 両角友成県議会報告

## 6月議会の本会議で一般質問

### 「東京五輪」開催に 強い疑問と危惧を表明

東京オリンピック・パラリンピックが、世界的なコロナ禍の中で開催に向けて進んでいる現在の動きに強い疑問と危惧を表明しました。長野冬季五輪を成功させた県として、国の動きに対する知事の姿勢を質しました。

知事は、コロナ禍で開催する以上、感染拡大につながるような最大限の措置が必要との答弁にとどまりました。

### 行政のデジタル化で、 住民福祉が後退しないか

行政デジタル化の問題点として、個人情報の一元化やデジタル庁の発足、マイナンバーカードの利用促進などがあげられている。県は市町村と一緒にシステムに入るとあるが、

標準化の名のもとに各自治体が住民福祉のために積み上げてきたものが後退するのではないかと。また、内部情報や個人情報の流失の問題もあると指摘しました。

答弁では、国は行政サービスのレベルや仕組みを統一するとは考えておらず、同じシステムであってもそれぞれ独自のサービスを工夫しながら提供しやすくなるとの認識を示しました。

### 個人住宅の太陽光パネル 設置への補助を歓迎

党県議団として長年にわたって要望してきた個人住宅への太陽光発電パネル設置などに対する補助が6月議会に提案されたことは歓迎する。昨今の地球温暖化が生み出す異常気象に対して若者から「私たちの未来を奪わないで」との訴えを紹介し、知事に若者のこの思いにどう応えるのかを問いました。

知事は、近く「ゼロカーボン実現県民会議（仮称）」を立ち上げ、若者世代も含めて多く



の皆さんに協力していただきゼロカーボン実現に取り組んでいきたいと答弁しました。

今回も、待ったなしの課題を取り上げました。世の中の動き、県民の皆さんの思いがどこにあるのか、アンテナを高くして、これからも議会活動に力を尽くしてまいります。

## 県民文化健康福祉委員会

### ワクチンは足りるのか

県は4か所に集団接種会場を設置し、市町村によるワクチン接種を補完し、県全体の接種の加速化と円滑化を図るとするが、6月29日に「職域接種の申請を中止」に見られるようにワクチンが足りないのではないかと。県民の期待を裏切ることがあってはならないと質しました。

答弁では、275箱・183箱が長野県に来ると具体的に数字を上げ、当面は大丈夫との事でした。



### 基礎科学に力を入れるべき

外国でワクチンがすぐできたイメージを持ちましたが、実は40年間かけて今があると知らされました。ワクチンに対し日本では、基礎研究に潤沢な予算を配分してこなかった「付け」が今来ているのではないかと。

部長は答弁で、重要な事柄と承知している。国にもしっかり要望するとの事でした。

生活保護制度での申請抑制につながると思われる「扶養紹介」は義務ではないとの立場で質問。生活福祉資金貸し出しでは、65歳以上の方はダメではなく、高齢者でもコロナ禍で職を失った方々も壁をつくらず必要な方に貸し出してほしいと質しました。

答弁では、窓口の県社協に検討するよう申し込んでいるとの事でした。



凍霜害の調査  
4/21 安曇野市三郷地区

